

## モンゴル

### 1-11月期の経済動向

鉱工業部門の下半期は回復している。同生産額は、前年同期比で上半期が 0.6%であったが、1-11月期には2.5%増となっている。これは、これまで工業部門の不振を鉱業部門の好調が補う形で推移してきたものが、10、11月に工業部門の生産が下げ止まりの傾向を見せたためである。特に、織物工業の生産額の伸び率がここ2ヶ月で24ポイント増加しており際立っている。部門別に見ると、工業部門の生産額は前年比で 4.1%、鉱業部門は8.1%増となっている。

主要な農作物類の収穫量は、9月の時点より若干よくなっているが、1-10月を通してみると、野菜を除いてどれも前年を下回っている。穀物が 16.3%、ジャガイモが 10.6%、干し草が 3.6%、野菜が10%増となっている。前年と比較した収穫量の変化はどれも作付け面積と対応しているが、単位作付け面積当たりの収穫量はどれも増加している。

上半期に高かった物価上昇率は第3四半期に下がり、その後大きな上昇はなく、11月末には5.9%となっている。10、11月の2ヶ月間で価格の動きが目立った品目は、水道料金の22.6%増、石炭の37.5%増、薪の45.8%増などである。1-11月を通してみると、最も上昇率が高かったのは、熱・電気関係の21.3%、続いて肉・肉製品の11.2%、アルコール・タバコの10.6%となっている。逆に、価格が最も下がったのはジャガイモと野菜で 9.6%であった。

貿易の拡大は続いているが、10、11月にいたって輸出の勢いが若干落ち着く一方で、輸入の増加が目立っている。

1-11月期は前年同期比で輸出が35.8%増、輸入が38.3%増、貿易収支は3,560万米ドル悪化している。

財政収支は、1-11月期の前年同期比で歳入が31%増、歳出が15.8%増となり、222億トグリク改善されている。

### 雪害の心配

2001年の年初は、昨年以上に深刻な雪害に見舞われ、モンゴルの基幹産業である牧畜業がさらに打撃を受けそうである。2000年の夏の干ばつから牧草の育ちが悪く、さらに昨年以上に厳しい寒さの到来により、家畜にとって悪い条件が重なっているためである。ウランバートルの11月の平均気温は-17.5度で、昨年と同月より8.7度低い。この寒さの傾向はモンゴル全土でみられる。

### モンゴル政府の新しい発展戦略

7月の総選挙で政権が代わり、新たにモンゴル政府の行動プログラムが発表された。2004年までに6%の経済成長率を達成するための主要な政策として、①マクロ経済の安定化、②金融部門の復興、③民営化の継続とその効率性の改善、④鉱工業生産の復興と輸出の推進、⑤インフラの開発の強化が挙げられている。モンゴルの基幹産業が、さらに天候や鉱業品の国際価格などの外部環境の変動リスクに耐え得るような経済社会システムが構築されることを期待したい。

(ERINA調査研究部研究員 浜田充)

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	00年1-11月
鉱工業生産額(前年同期比:%)	12.0	2.5	4.4	3.2	1.3	2.5
消費者物価上昇率(対前年比:%)	53.1	44.6	20.5	6.0	10.0	5.9
国内鉄道貨物輸送(百万トンキロ)	1,266.4	1,241.4	1,204.0	1,273.6	1,346.3	1,286.0
失業者(千人)	45.1	55.4	63.7	49.8	40.1	38.5
対ドル為替レート(トグリク、期末)	473.6	693.5	813.2	902.0	1,072.4	1,097.0
貿易収支(百万USDドル)	58.0	26.6	16.8	158.1	154.5	109
輸出(百万USDドル)	473.3	424.3	451.5	345.2	358.3	407.0
輸入(百万USDドル)	415.3	450.9	468.3	503.3	512.8	515.7
国家財政収支(十億トグリク)	4.7	48.3	65.1	97.5	85.0	46.1

(注)失業者数は期末値。消費者物価上昇率は各年12月、2000年は9月の値。貨物輸送、財政収支は年初からの累積値。

(出所)モンゴル国家統計局、「モンゴル統計年鑑1999」、「モンゴル統計月報2000.11」